

第126回教育研究会の報告(12/15 開催)

「どうすればいい？ 社員と職場の活性化」

経営環境が厳しい中、多くの課題をかかえ業務をこなす状況が続く職場内にやらされ感や疲労感が蓄積しているのでは？元気の出る職場づくりを目指し、活性化させることでやりがいと達成感を得ることで業績を上げることができる。そのためにチームづくりをどうするかが重要であるという視点から日本能率協会マネジメントセンター研修センター 事業本部長 田口光彦氏よりご指導をいただいた。



職場活性化の原理とチームマネジメント

日本企業の強さは”職場”にあったが、目標管理に傾きすぎた経営が、自分自身に目が向き、他人に目がいかなくなった。結果、人を育成することが薄れ、現場は元気をなくしてしまった。

職場活性化のためには、①貢献実感②成長実感③協働実感を味わえる経営とチームマネジメントが必要である。リーダー＝メンバーであり、「目標共有」「全員参加」「自力実行」が重要である。

各自が実力にあった貢献領域を設定し、自分のできる最高・最良のことに実行する姿は、感動を呼び、必然的に信頼関係が生まれ職場の高業績につながるなど具体的で分かりやすいご指導であった。

後半、グループに分かれ、「元気の出る職場づくりへの工夫」について、自社の事例と課題について情報交換を実施した。活発な意見交換があり、田口氏からも各グループに個別アドバイスもあり、参加者から有意義であったと感想があった。